

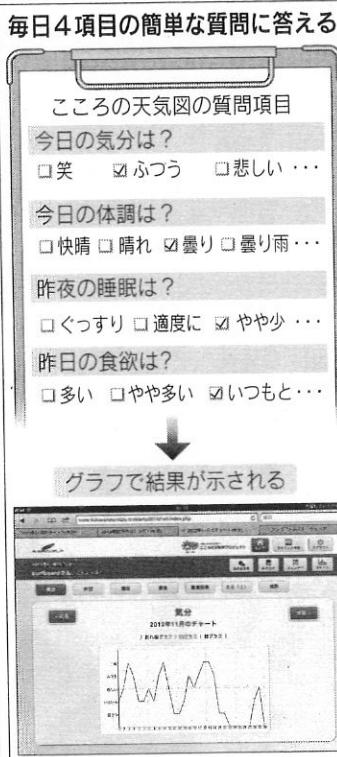
(株) サーフボード

気分や体調 毎朝4つ回答

従業員の心の病兆候察知

サーフボードクラウドで提供

ホームページ制作とシステム開発を手掛けるサーフボード(福井市)は従業員が日々の気分や体調を簡単な操作で入力するだけで、心理的ストレスの変化を時系列で把握できるクラウドサービスを始めた。経営者が従業員のうつなど心の病の兆候を早期にとらえることで発症を未然に防ぎ、人件費の増大につながる休退職を減らすのが狙い。主に中小企業を対象に社会保険労務士やカウンセラーを通じて売り込む。



サービスの名称は「こころの天気図」。従業員は毎朝パソコンやスマートフォン上のブラウザで専用ページを開き、その日の体調と気分、睡眠量、食欲の4つの質問を5段階で入力する。作業は20〜30秒で完了する。うつつの症状を診断する場合、通常は簡易抑うつ症状尺度(QIDS-J)と呼ぶ16項目からなるテストを受ける。サーフボードでは日々、長期間継続できるように、県内大学の心理学科の教授陣や産業カウンセラーのアド

バイスを受けて、質問を4つに絞った。回答結果は合算され点数で表示される。データはカレンダー上でアイコンで示したり、折れ線グラフで表示したりして気分の変化を視覚的にとらえられる。

こころの天気図では個別の従業員のデータは本人以外はサーフボードと契約した外部の社労士やカウンセラーしか閲覧できない。ストレスの変化を部署単位で観察し、個別の従業員が心の病を発症する前に変化を察知する。

従業員は「健常者」であるとの前提で質問をするため、心の病の兆候が疑われた場合に「医師にかかるきっかけを見つけてみる仕組みで、医療行為ではない」と、サーフボードでは説明している。

今後の取り組みとして、うつ病特有のデータの動きをパターン化し、同じような動きが見られた場合には本人やカウンセラーに知らせる仕組みも盛り込みたい考え。

従業員1人当たりのサーフボード利用料は最低利用期間である半年間で1260円。三井物産子会社で健康相談サービスの保健同人社(東京・千代田)の試算では年収500万円の従業員が半年間休業するとほぼ同額の費用が余分にかかる。サーフボードの田嶋節和社長は「利用料は十分に元が取れる金額」と話す。初年度10社、3000人の利用者獲得を目指す。